

令和6年9月6日発行（第191号）

こうじえん

普及センターだより

耕耳苑

いわてアグリ
ベンチャーネット
にも掲載中！

宮古農業改良普及センター TEL：0193-64-2220 FAX：0193-64-5631
岩泉普及サブセンター TEL：0194-22-3115 FAX：0194-22-2806
いわてアグリベンチャーネット <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>



酪農の仕事をもウツと知ってもらいました！

宮古地方農業振興協議会では、令和6年8月9日に、非農家出身でも酪農の仕事ができることを知ってもらうという目的で、「酪農をもウツと知ろうツアー」を開催しました。

当日は管内外から酪農に興味がある高校生や社会人5名が参加しました。

ツアーでは、午前中に地域の新規就農者から、酪農ヘルパーや地域おこし協力隊の経験を経て就農した事例を紹介していただきました。また、午後には岩泉町と田野畑村の2カ所の牧場を見学し、雇用者や後継者を探している経営体の話を聞きました。

参加者からは就農時のことから現在の経営についてまで幅広く質問が出され、酪農への関心の高さが感じられました。また、「技術だけでなく、経営の話も聞けて良かった」や「酪農で就農したいという気持ちが強くなった」等の感想も聞かれ、酪農の仕事ができる可能性を知ることができたようです。

今回のツアーが就農を考えるうえでの一助となれば幸いです。



【担当：昆野(有)】

県大会への切符を獲得！～第35回宮古地方日本短角種共進会～

8月7日、美牛コンテストとも言われる共進会が、岩泉町の「乙茂おでんせ広場」を会場に開催されました。この宮古地方日本短角種共進会は、9月に開催される岩手県畜産共進会日本短角種の部の地方予選会を兼ねており、県大会への出品に向けて競われます。

当日は、未經産牛や経産牛の部等3部門に42頭が出品され、体の大きさ、整い具合、日本短角種らしさ、雌らしい美しさなどの項目で審査が行われました。多数の出品牛の中から、岩泉町の佐々木和時美氏が出品した「よしひめ」が、最優秀賞を受賞しました。「よしひめ」を含めた入賞牛と事前選抜群を併せた27頭が、見事県大会への切符を獲得しました。

耕耳苑本号が出ているときには既に結果が出ていると思われませんが、宮古地方代表牛の活躍に御期待ください。

【担当:澤田】

審査の様子



最優秀賞受賞牛「よしひめ」



食の匠の会 技術研鑽研修・交流会を開催

宮古地方食の匠の会は、会員相互の研鑽と交流を図るため、8月21日に11名が参加して、技術研鑽研修・交流会を開催しました。

初めに、交流会として岩泉町内の喫茶店「飴喫茶庵（あめきっちゃん）」に集合し、雑穀料理を食べながら情報交換を行いました。続いて研修会に移り、令和5年度に食の匠に認定された熊谷英美子さんの「したみにぎり」の調理実習を行いました。したみ（どんぐり）の下処理やあく抜き工程、発酵工程は時間がかかるため、資料による説明とし、発酵後の練り工程から握り工程までを行いました。

食の匠の皆さんからは、「砂糖を使っていないのに上品な甘味があっておいしい」といった感想がありました。また、食の匠と一緒に参加した特待生の加藤さんは「どんぐりの料理を生まれて初めて食べた」と仰っていました。

【担当:佐藤】



～ 岩手県「食の匠」の技 動画で公開中 ～

岩手県公式動画チャンネル(<https://www.youtube.com/@prefiwate>)において、岩手県食の匠による調理動画を公開しています。宮古地方からは現在3つを公開中です。



鮭の親子ずし



豆すつとぎ



縄文まんじゅう



台風対策を万全に！

いわてアグリ
ベンチャーネット
農作物技術情報

- ☑8月に岩手県を横断した台風5号により、宮古地域においても河川の増水や田畑への冠水等の被害が確認されました。10号の影響も懸念されたところでしたが、今後も台風の影響を受ける可能性がありますので、事前の対策を行い、被害の防止・軽減に努めましょう。
- ☑台風の接近中は、人命第一の観点から、圃場の見回りは行わないでください。
- ☑大雨・強風がおさまった後の見回りも、増水した水路やその他の危険な場所には近づかず、足下等の圃場周辺の安全に十分に注意してください。



【作目ごとの対策】

	事前対策	事後対策
水稲・畑作物	<ul style="list-style-type: none"> ・浸水や冠水に備え、<u>排水口、排水路を点検・補修</u>し、詰まりの原因となる<u>ゴミを除去</u>する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 10px 0;">排水路の事前点検を！</div> 	<ul style="list-style-type: none"> ・冠水した場合は、葉が少しでも早く水面に出るよう<u>速やかな排水</u>に努める(水稲)。 ・<u>周囲溝や排水口を再点検・補修</u>を行い、<u>排水を促進</u>する。また、風雨で生じた傷口から病原菌が侵入して病害が発生しやすくなるため、<u>薬剤散布</u>を行う(畑作物) <p style="text-align: right;">【担当：小野】</p>
野菜・花き	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>排水溝の整備・点検</u>を行い、可能であれば浸水防止のために圃場の周囲に排水溝を設置する。 ・防風ネットのワイヤーやネット、ハウスバンド等の補修やゆるみの無いように張り直しをする。 ・倒伏防止に畦の両端や所々に支柱を補強し、茎葉を固定する。 ・パイプハウスを点検・補強する ・<u>収穫可能なものはできるだけ事前に収穫を終える</u>。 	<ul style="list-style-type: none"> ・圃場にたまった水は<u>直ちに排水</u>し、畦間の中耕を行うなど、根の伸長を促進する。 ・<u>防除マニュアルをもとに殺菌剤を散布</u>する(きゅうりは褐斑病やべと病、ピーマンは斑点病、ブロッコリーは黒すす病を重点的に防除)。 ・草勢が低下した場合は、液肥を薄い濃度で施用又は葉面散布する。 ・果菜類では、<u>傷んだ茎葉や果実は摘除</u>して草勢回復を図る。 <p style="text-align: right;">【担当：松浦】</p>
果樹(りんご)	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫が近い品種は、果実品質や農薬の安全使用基準(収穫前日数)を確認し、<u>収穫が可能であれば、速やかに収穫を進める</u>。 ・防風ネットの張りを点検し、<u>緩んでいるワイヤーの張り直しや破れたネットの張り替え</u>を行う。 ・わい性樹は強風で倒伏することがあるため、主幹を支柱に2~3か所結束する。 ・予め排水用の溝を切り、圃地から速やかに排水できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・強風や雨で樹が傾いたり横になった場合は、<u>できるだけ早く立て直す</u>。その際、残っている根を切らないように注意する。速やかな立て直しが難しい場合は、露出した根が乾かないようにする。 ・冠水等により枝に付着したごみや果実の泥は取り除く。また、果実に腐敗等が生じた場合は、速やかに取り除く。 ・側枝等が折れた場合は、傷口を滑らかに切り、塗布剤を塗布する。 <p style="text-align: right;">【担当：佐々木(絢)】</p>
飼料用作物	<ul style="list-style-type: none"> ・圃場の排水路や排水溝の点検を実施する。 ・排水ポンプを準備する等の事前対策をとる。 ・雨水が流れたり滞留しやすい場所にラップサイレージがある場合、影響を受けない高めの場所に移動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・圃場が滞水した場合は、<u>速やかに排水</u>する。 ・飼料用とうもろこしやソルガムは、倒伏・折損の状況に応じた対策をとる。 軽度：そのままにして適期収穫。 重度：早期収穫、多量給与を避ける。 甚大(収穫不能)：ライ麦等を播き直し。 <p style="text-align: right;">【担当：西田】</p>
畜産	<ul style="list-style-type: none"> ・停電に備え、<u>非常用電源を準備</u>し、動作確認や燃料確保を実施する。 ・断水に備え、<u>貯水タンク等に水を確保</u>する。 ・畜舎内に雨水が入らないよう、施設の点検等を行う。 ・強風に備えて修繕や補強を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・浸水した畜舎やその周辺は、疾病や害虫等の発生防止のため、<u>速やかに排水・清掃・消毒</u>を行う。 ・牛床の敷料が雨水等で濡れた場合は、速やかに乾いたものと交換する。 <p style="text-align: right;">【担当：西田】</p>

水稻の適期刈取について

- ・今年の出穂期は7月28日～31日となり平年より6～7日程度早まりました。
- ・出穂期以降、最低気温が平年よりも高く推移し、日照時間もやや不足していることから、白未熟粒（心白粒）の発生が懸念されます。
- ・品質を低下させないため刈遅れないように注意しましょう！
- ・管内の刈取適期（出穂後積算気温950℃到達日）は早い圃場では9月1日頃となる予測です。
- ・収穫適期は籾の熟色で判断します。黄化した籾の割合が85～90%程度となったら収穫適期です。
- ・最終的な刈取判断はテスト籾すりを実施して行いましょう。

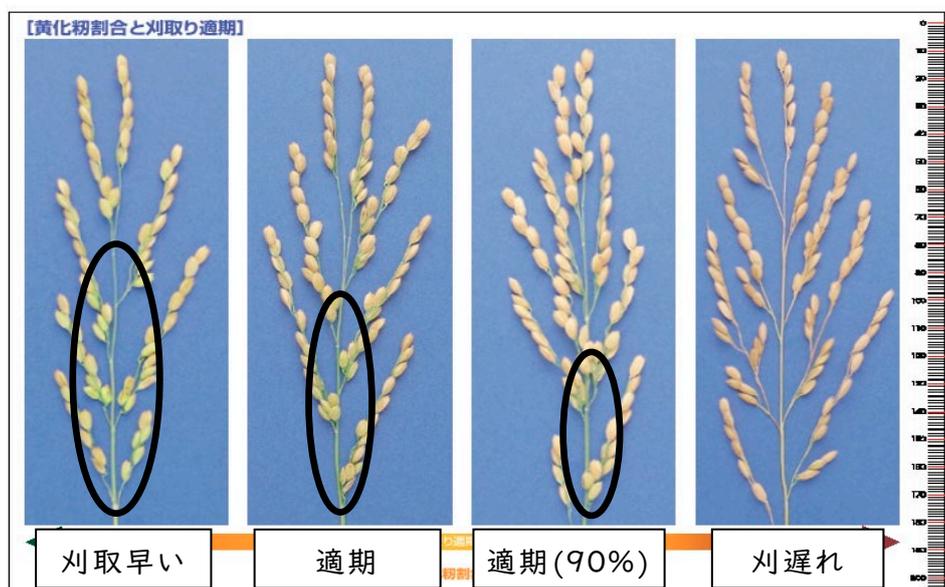


図 黄化籾割合と刈取適期

※○で囲んだ部分が青みの残っている部分。青みが残っていないのは刈遅れなので注意。

【担当 小野】

「ひと休み 急がば回れ 農作業 ゆとり忘れず 安全管理」

～秋の農作業安全月間が始まります～

岩手県では、令和6年9月15日から11月15日までを「秋の農作業安全月間」として定め、農作業安全確認運動を実施します。

秋の農繁期は、農業機械による作業が増えるとともに、日没が早まることで農作業事故の危険性が高くなる時期です。農作業事故を防ぐため、次のことを心がけましょう。

- ・ゆとりのある計画的な作業を心がける。
- ・農業機械に触るときは、必ずエンジンを停止してからにする。
- ・1人での作業は避け、家族には作業場所と帰宅時刻を知らせる。
- ・農作業に出かける際は、携帯電話を持ち歩く。



前年と同様に猛暑が続く年となりました。9月も厳しい残暑が続く予報となっていますので、水分補給をこまめにし、熱中症にも注意して作業しましょう。

【担当：戸田】

（編集後記）

今年も昨年と同様に暑い日が続きましたが、9月に入りやっと秋らしさを感じられるようになってきました。先日の台風10号は速度が遅く進路予測もかなり難しかったようで気をもんだ方が多かったと思います。今後も台風等の影響が懸念されますので、少しでも被害を小さくし、出来秋を迎えられますよう事前準備を進めていただきますようお願いいたします。（島）